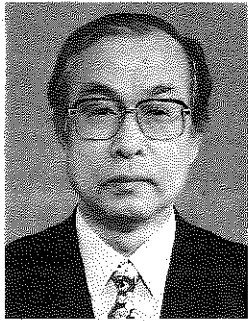


栃木県中学校長会報

会長あいさつ



栃木県中学校長会長
宇都宮市立旭中学校
校長 鈴木基司

平成4年度は、激しく変動する社会の中で、教育界においても多くの課題で揺れ動いた1年間でしたが、福富会長を中心に174名の校長が手を携えて研究を深め、各学校でリーダーシップを発揮して教育の活性化を図るとともに、第44回関東甲信越地区中学校長研究協議会栃木大会の運営に努力し、盛会裏に終了できましたことは大きな喜びであります。

さて、平成5年度を迎え、いま、私たちは教育改革のまっただ中におります。新学力観、選択履修さらに学校週5日制、そして進路指導に係わる問題まで多くの課題に直面しております。

申すまでもなく、現代の教育は「国際社会に貢献できる心豊かでたくましい日本人の育成」を目指して進められるものですが、この実現に向けていまこそ、各学校が新学習指導要領の趣旨を生かした創意ある教育課程の編成と実践に取り組みなければなりません。

学習指導要領の総則第1に「学校の教育活動を進めるにあたっては、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図ると共に——云々」とありますが、「自己教育力」「基礎・基本」「個性」この三つの柱をひとり歩きさせてはなりません。3者を相互に関連させて、丁度、楽器のトライアングルの3辺が響き合い、温か味のあるすばらしい音色を出すのと同じように、中学校教育においてもこのことに着目し、「自己教育力の育成」「基礎的・基本的内容の指導の徹底」そして「個性を生かす指導の充実」この三つの相互関連を図った教育課程の編成と着実な実践こそ最重要であると考えます。

次に、第2の課題として、進路指導の適正化があげられます。すなわち偏差値偏重の進路指導からの脱却——業者テストに依存しない進路指導であります。

文部省は、「業者テストに依存しているがために、本来の在り方を見失っている中学校の進路指導を抜本的に見直し、指導の転換を図ること」と我々に意識の改革、指導の転換を強く要請しております。

改善の基本的視点として「学校選択の指導から生き方の指導への転換」をはじめ4点が示されておりますが、これまでの進路指導の在り方を見直し、その基本に立ち返り、新しい教育で求められている「自ら学ぶ意欲と思考力、判断力、表現力を重視する」新学力観に立った指導の実践が急務であると考えます。

いままさに実践の時を迎えました。この指導が各学校で進められ、生徒自身が個性を生かし、自分の生き方として進路を考えていけるようにすると共に、進路対策部会を中心に、生徒や保護者が進路選択への不安感をもつことのないよう、高等学校入学者選抜方法の改善、さらには高等学校教育の在り方、すなわち特色ある個性的な高校づくりを要請していかねばなりません。

第3に、校長会の今年度の仕事の一つとして、文化活動の振興に関する調査研究を推進し、県に補助金の要請をしたいと考えております。

その他、生徒指導に関しては、登校拒否等学校不適応生徒への対応が課題ですし、学校週5日制実践上の問題等、校長会として取り組まねばならぬ課題がありますので、今後とも、教育委員会をはじめ関係機関との連携を一層深めながら努力を傾注していく考えであります。県ならびに市町村教育委員会、関係機関、団体の方々の温かいご指導とご支援をお願い申し上げます。

最後に、私どもが共々に、校長としての使命に徹し、協力一致の体制で県中学校教育の益々の充実発展に努力を重ね、県民の期待に応えることを誓い合いたいと存じます。

(総会での会長あいさつより)

教員のメンタルヘルスに思う



栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立宝木中学校
校長 柴田 正博

6月29日に文部省の「教員の心の健康等に関する調査研究協力者会議」の結果が公表され、ほとんどの教委が、心の健康に問題のある教員がおり、学校の教育活動に「影響が生じている」とし、職場復帰に当たって7割以上が教育活動に支障を来していると言及し、学校管理に携わるものとして、個々の職場でも真剣に対応策を考えねばならないと思われる。

特に精神性疾患の病休の増加や「適格性を欠く教員」の該当者なしとした教委の回答はなかったそうである。年齢層も30～40歳台が多く、責任ある年代にあるものが多いというのも深刻な問題であろう。

特に具体的な支障として考えられるものを列挙して見ると

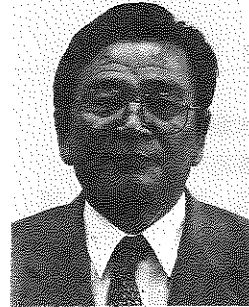
1. 休暇、欠勤のために正常な授業展開が難しい。
2. 正常な学級経営がおぼつかない。
3. 情緒不安定な言動で生徒の健全な育成が妨げられる。
4. 教育の原点でもある保護者との信頼関係が崩壊する。
5. 同僚の負担増
6. 教職員間の人間関係の悪化

等どれ一つとっても問題は深刻なものである。

心の不健康状態にある教員への対応策として行政関係で実施している方策は、医師の診断、職務の負担軽減、生徒との接触の少ない職務に代える、配置換え、分限処分や懲戒処分、校長等による指導の強化等が取られているようである。

現場を預る我々としては、配属された職員の日頃の勤務振りや個々の職員を取り巻く人的・物的環境を十分観察し、適切な指導・助言を加えながら、行政との連携を図り、一人一人の職員が意欲的に教育活動に専念できるような配慮が必要であろうと考えるこの頃である。

新教育課程実施に思う



栃木県中学校長会副会長
南河内町立南河内中学校
校長 鈴木 秀夫

これまで学習指導要領の改訂をみるたびに、教育の質的変換が叫ばれてきた。そして学校では家庭・地域と連携を図りながら改訂の趣旨を生かし、ねらいに迫る努力を重ねてきた。

しかし、中学校教育は依然として教師主導型による一方的な知識伝達に偏った教育から抜け切れていないとの厳しい指摘を受けている。

一方、学校にはその指摘に対する謙虚な反省と新しい教育に徹し切れない「もどかしさ」が錯そうしている実態をうかがい知ることができる。

このたびの新教育課程の全面実施に当たって学校では、教育課程改訂の基本的な考え方である四つの柱を日常の教育活動、せまくは各教科の学習活動の中でどう位置づけ、どう実践しようとするのかを明確にして全面実施に臨んでいるはずである。

ところが、この教育改革の理念実現の前に大きく立ちほだかり、これからの中学校教育の行方を左右しかねないものの一つとして高校教育の在り方、とりわけ高校入学者選抜の在り方の問題がある。さいわい、来年度は高校の教育課程全面実施のスタートの年に当たる。これを機に高校には、教育課程を編成する視点、あるいは教育方法を考える場合などこれまで以上に中・高の一貫性を強くするよう望みたいものである。

当面の入試改善については、校長会や進路対策部会等が「新しい学力観」に基づく中学校教育の成否は一に今後の高校入試改善如何にあるとの認識で関係当局・機関等に具体的に要望・提言しているところである。

「静かな教育改革」とも言われる今次教育改革ではあるが、スタートは極めてドラスティックに展開している。学校はその本質の見極めをきっちりと正しく行い、変化の激しさときびしさが予想される21世紀に生きる望ましい生徒像の具現のため、日常の教育活動の改善・充実に不断の努力を積み重ねたいものである。

退任にあたって



前栃木県中学校長会
前宇都宮市立陽北中学校
校長 福 富 徳 治

校長先生方には、益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。私こと、会長在任中は、多大のご協力・ご支援を賜り、その責務を遂行できましたことに対し、心より感謝申し上げます。特に、第44回関東甲信越地区中学校長研究協議会栃木大会の開催に当たり、県・市教育委員会、関係団体をはじめ、先輩の校長先生方のご援助を得まして、174校の校長が一丸となり栃木大会を成功させましたことは、県中学校長会といたしましても誇りとするところでもあります。改めて、会員の皆様方に感謝申し上げます。

平成5年度から、教育課程が全面実施となり、

さらに、学校週5日制の推進、高等学校入学者選抜に関する諸問題など、多くの課題を抱えております。その課題をどう方向づけるかを県民が注目しているところであります。校長先生方におかれましては、これらの課題を解決の方向に努力され、県民の信託にこたえるために、創意と工夫を凝らし、学校運営に十二分に力量を発揮するときであります。中でも、高校入試選抜に関する課題につきましては、中学校教育（義務教育）が正常に推進されるようにしなければならないし、高校入試により教育課程が歪められないように努力しなければなりません。ことに個性重視の教育理念が貫かれるよう切望してやみません。そのためには、新しい学力観を、教職員をはじめ保護者や地域の方々にも理解され、意識を改革すると共に、行動により改革が推進され、リーダーシップを発揮されま

すようご期待いたします。最後になりますが、校長先生方におかれましては、健康に留意され、一層の研鑽を積まれ、栃木の教育の振興に尽力されますことをご祈念申し上げます。

平成5年度 各専門部活動計画

調査部

部長 古山 明夫 (宇・泉が丘中)

1 役員を選出と事業計画の承認

平成5年6月4日、栃木県教育会館において開かれた県中学校長会専門部会の折、満場一致、次のとおり決まりました。

(1) 役員

副部長 古橋 正好 (河・上河内中)

同名塚 史雄 (上・今市中)

(2) 事業計画

ア 全日本中学校長会調査部との共同調査である「中学校教育に関する調査」の実施

イ 県中学校長会及び各専門部活動に必要な調査と資料・情報の提供

ウ 他都道府県中学校長会及び各教育関係団体との連携・協力並びに資料・情報の交換

エ 各種調査結果及び収集資料・情報の提供・配布

2 「中学校教育に関する調査」について

本調査は、全日本中学校長会調査部より依頼されたもので、6月中に実施しました。

調査に当たり内容項目を吟味検討したところ従前のように県教委義務及び高校教育課の人事・行政係の手を煩わす方がよいと判断しました。ついて、関係各課に記入方をお願いしたところ、ご多用な中ほぼ全部にご記入いただきました。

なお、中の「教科担当教調べ」にはデータがなく、本調査部員を通じ悉皆調査を実施しました。急なことで、皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。ご協力ありがとうございました。

また、本調査は、冊子にまとめられ、後日全日中より配布されるのでご活用ください。

3 教育課題等に関する調査研究について

向後、県下全中学校または校長対象の教育課題等に関する調査研究の実施を決めました。

☒ 研修部

部長 長嶋 晟一 (塩・片岡中)

1 第1回研修部会

平成5年6月22日(火) 教育会館

議題

(1) 平成5年度研修部組織

- ・研修部長 長嶋 晟一 (塩・片岡中)
- ・同副部長 安久井 賢治 (小・乙女中)
- ・同副部長 渡辺 正路 (河・明治中)

(2) 今年度の研究活動

ア. 主 題 心豊かでたくましい日本人を育てる中学校教育(継続)

イ. 副主題 個性を生かす教育の推進と学校週5日制推進の実践的研究

(3) 平成5年度研修部活動計画

ア 第15回栃木県中学校長会研究大会

- ・期日 平成5年9月9日(休)
- ・会場 栃木県子ども総合科学館
- ・内容 <午前>全体会(研究発表)・分科会

① 学校週5日制実施の現状と諸問題(那須地区)

② 一人一人の個性と自己教育力の育成をめざして (安佐地区)

③ 個性を生かす教育の推進に関する研究

<午後>講演会 (芳賀地区)

- ・演題 「新しい学力観と学校経営の改善」
- ・講師 国立教育研究所教育経営研究部長 牧 昌見

2 第2回研修部会

平成5年7月23日(火) 県学生協会議室

(1) 第15回栃木県中学校長会研究大会のもち方

- ア. 演題・講師等についての再確認
- イ. 3地区研究発表資料・記録等の確認
- ウ. 大会運営の役割分担 など

3 第3回研修部会

平成5年8月10日 県学生協会議室

研究集録第15集の編集について

内容の構成

県研究大会講演の内容、3地区の研究発表全国大会並びに関プロ大会の発表など

☒ 編集部

部長 霧見 徹也 (宇・星が丘中)

編集部会は、第1回 平成5年6月4日(金)、第2回 平成5年6月26日(土)にそれぞれ教育会館で行いました。そこで本年度の役員や事業計画などについて話し合われましたが、その概要は次のとおりです。

1 平成5年度役員

- 部長 霧見 徹也 (宇・星が丘中)
- 副部長 高久 邦夫 (河・古里中)
- 副部長 羽鳥 一郎 (那・下江川中)

2 平成5年度会報発行の構想

- ア 会報は年2回発行する。(79・80号)
 - ・内容はほぼ従来どおりとする。
 - ・「地区だより」については、「活動計画」「活動結果」を報告する地区が、しばらく固定されていたので、これを入れ換える。
 - ・後期号(80号)に、専門部の活動結果の報告を掲載する。

イ 発行予定日

第79号 平成5年9月1日

第80号 平成6年2月1日

ウ 各号の内容

[第79号]役員所感、専門部の活動計画、関東甲信越(新潟)大会報告、退任にあたって(前会長)、新任校長の一言、地区だより、私の朝会訓話、お知らせ(関プロ大会等)

[第80号]役員所感、専門部活動報告、全日中大会報告、研究学校報告、地区だより、海外教育事情報告

エ 地区だより執筆地区変更

本年度から、事業計画報告の地区と事業実施報告の地区を毎年入れ換える。

3 次回編集部会

ア 平成5年11月26日(金)

イ 議題 会報第80号の内容、執筆者人選等

4 その他

会報を、2回とも12ページにする方向で検討中。

☒ 職員対策部

部長 大塚 一之 (宇・陽北中)

平成5年6月4日(金)、県教育会館において、専門部会を開き、本年度の組織及び事業計画を協議し、次のように決定しました。

1 役員

- 部長 大塚 一之 (宇・陽北中)
- 副部長 巻島 秀世 (栃・栃木東中)
- 〃 竹田 公彦 (塩・玉生中)

2 事業計画

- 講話 「退職後の生活設計」
- 期日 平成5年11月26日(金)(予定)
- 場所 県教育会館
- 講師 県教委福利課長、各係長他

3 研修内容

—退職と退職後の課題—

- (1) 医療保険について
 - ・退職後の医療について
 - ・任意継続組合員制度
 - ・継続療養制度 等
- (2) 退職手当について
 - ・退職手当の種類
 - ・退職手当の計算
 - ・各種課税 等
- (3) 年金制度の概要について
 - ・年金の種類
 - ・退職共済年金の内容としくみ
 - ・退職共済年金の支給 等

※ 講話「退職後の生活設計」については、福利厚生部と共催の予定です。

☒ 進路対策部

部長 伊澤 喜二 (宇・陽西中)

平成5年5月1日(土)県中学校長会総会時に、臨時の進路対策部会を行い、本年度の組織及び業者テスト廃止に伴う情報交換会の開催を早急に開催することとし第1回研修部の期日を決定した。

- 1. 役員 部長 伊澤 喜二 (宇・陽西中)
- 副部長 佐藤 肥 (南那・烏山中)
- 〃 片柳 達 (安・常盤中)

2. 本年度の事業

(1) 第1回研修会

- ア 期日 平成5年5月19日(水)
- イ 場所 栃木県教育会館
- ウ 内容 適正な進路指導についての情報交換と入試改善要望について

(2) 第2回研修会

- ア 期日 平成5年6月4日(金)
- イ 場所 栃木県教育会館
- ウ 内容 本年度の行事予定と第3回日の研修会時の事前研究課題について

(3) 第3回研修会

- ア 期日 平成5年6月30日(水)
- イ 場所 栃木県教育会館
- ウ 内容 県立高校入試制度改善についての要望事項
 - ・調査書について
 - ・多様な入学の選抜について
 - ・入学試験問題の多様化について
 - ・手続き等の問題について

(4) 高等学校改革検討委員会委員への要望

- ア 期日 平成5年7月14日(水)
- イ 場所 栃木県教育会館
- ウ 内容 第3回研修会での内容を校長会代表委員に要望(伊澤、片柳、鈴木)

(5) 第4回研修会

- ア 期日 平成5年10月の予定
- イ 場所 栃木県教育会館
- ウ 内容 私立高等学校生徒募集、入試等について懇談



☒ 修学旅行部

部長 渡邊 敏夫(宇・豊郷中)
副部長 山吉 泰夫(宇・城山中)
" 荒井 貞夫(小・第二中)
監査 大塚 宏(芳・真岡西中)

昨今、めまぐるしく変貌する社会情勢の中、中学における教育活動に対し、さまざまな対応が要請されていることは周知のとおりであります、その中心的課題は生徒たちの「生き方」を身につけること、学ぶことにより自己実現のため、どのように生きて行くかを自らの判断で手中にすることも考えられます。そのためには、まず多くの体験的な活動の中から知り、自国の伝統・文化にそれを見出すこと等が大切であります。

本部会は、学習指導要領の特別活動、旅行・集団宿泊的行事の目標に明示される各項を踏まえて修学旅行が円滑に実施され、その教育的機能が十分に行われるよう支援するため、研究・調査の報告等を目的とし活動するものであります。

特に、本部会は本県のみならず関東5県の校長会で組織される関修委に加盟し、主に関西方面についての安全かつ効率的な修学旅行の実施が可能となるように関係諸機関、団体、行政等に働きかけを行う活動をしております。この点のご理解を切に望むものであります。なお関修委はその母体を関東・東海・近畿の三地区の組織からなる全国修学旅行協議会(全修協)に持っておりますが、来る平成6年には、本県において全国修学旅行研究大会が開催されることになっておりますので、ご支援ご協力をお願いいたします。

—平成5年度の活動—

- 6月 平成5年度事業計画案・予算案審議等
7月 平成7年度新幹線利用希望調査
8月 同上集計、平成5年度修学旅行実施報告集計
9月 栃木・茨城調整会議(於・茨城県)
10月 中学校修学旅行の動向調査
12月 関修委研究発表大会(茨城県)
" 平成7年度修学旅行輸送計画の確認、学習資料の検討その他

☒ 福利厚生部

部長 橋本 好雄(宇・瑞穂野中)
平成5年6月4日(金)の部会において、本年度の正・副部長並びに事業計画を次のとおり決定しました。

- 1 正・副部長
部長 橋本 好雄(宇・瑞穂野中)
副部長 土屋 佳雄(塩・矢板中)
" 篠崎 恰二(佐・北中)
2 事業計画
(1) 第1回部会研修会
平成5年6月4日(金) 教育会館
ア. 役員選出
イ. 事業計画作成とその推進
(2) 第2回部会研修会
平成5年8月28日(土)
「生徒手帳」編集会議
(3) 第3回部会研修会
平成5年11月6日(土)
「中学生の安全」編集会議
(4) 会員研修会
平成5年11月26日(金)
講話 「退職後の生活設計」
講師 県教委 福利課職員
※ 職員対策部と共催事業
(5) 第4回部会研修会
平成6年1月24日(月)
ア. 「新しい道」検討会議
イ. 本年度の事業反省と次年度事業計画について



第45回関東甲信越地区中学校長研究協議会新潟大会に参加して

副会長 横嶋 孝夫(宇・陽南中)

第45回を迎えた本大会は、6月17日、18日の両日、環日本海圏の国際都市新潟市において開催され、1都9県から1320名の中学校長が集い、本県からも、鈴木基司校長以下85名が参加して、熱心に研究協議を行った。

第1日の開会式は、波多雄一大会委員長のあいさつに引き続き、文部省初中局中学校課長、全日中会長、県知事等、各界来賓から本大会への期待をこめた激励の祝辞をいただいた。

文部省説明の後の全体協議は、「特色ある生き生きとした学校経営の推進」と題して、地元城西中白川昭夫校長から「学校経営の重点」「学校経営を支援する組織の活動」を中心に提案された。

アトラクションで佐渡おけさ、万代太鼓が披露された後、分科会は9会場に分かれて熱心な提案と協議がなされた。本県代表の石橋中山本幸正校長は、第8分科会で「杖術体操の継承」について提案し、参会者に大きな感動を与えた。OHPとスライドを効果的に使い、太鼓のリズムと気合の入った掛け声に合わせた気迫のこもった杖術体操とその継承は、すばらしい提案内容であった。

第2日は、分科会まとめの発表、大会宣言の決議に続き、新潟良寛会会長子田重次氏の、「良寛の生涯と貞心尼」と題する記念講演を拝聴した。良寛の胸のときめくような貞心尼との出会い、貞心尼の良寛への憧れと敬い、そして思慕、この二人の清く、美しい愛を唱和の歌を交えて語られた。今日、良寛を慕い、貞心尼を偲ぶ私たちにとっても、この出会いのあったことをよるこぼすにはいられなかった。

おわりに、本大会全般にわたって心のこもったもてなしをしていただいた地元中学校長会に、心から感謝の意を表するとともに、本大会が大きな成果を上げて成功裏に終わったことを喜びたい。

☒ 生徒指導部

部長 中里 三男(宇・陽東中)
平成5年6月4日(金)県教育会館において専門部研修会を開き、本年度の役員及び事業計画を次のとおり決定した。

- 1 役員
部長 中里 三男(宇・陽東中)
副部長 大金 進(南那・馬頭中)
" 石井 歳一(足・富田中)
2 事業計画の概要
(1) 第1回部会研修会
於・県教育会館
ア. 期日 平成5年6月4日(金)
イ. 役員選出 上記の役員の通り
ウ. 研究課題 『登校拒否等学校不適応生徒への対応について』
この課題は前年度と同様、全日中の「活動の重点」及び県中学校長会の「重点目標」の中から取り上げて取り組んでいく。
エ. 研究の方向
① 前年度と同様、登校拒否の特徴を三段階に分け、初歩的段階(「学校へ行きたくない」という心境になる段階)の要因を生み出さないための「居がいのある学校づくり」の延長として取り組む。
② 本年度は、主として「学習に意欲がない」「学業成績が振るわない」「諸活動に打ち込めるものがない」という子どもに気力や自信を高める取り組みの実例を情報交換しよう。
③ いきいき栃木っ子3あい運動—学びあい 喜びあい はげましあおう—の積極的な実践につながるものでもよい。
(2) 事業のまとめと活用
ア. 地区として取り組んでいるもの、または顕著に取り組んでいる学校の実践等を平成5年12月上旬までに提出してもらい、全県的な形でまとめる。
イ. 県中学校長会理事・協議員研修会(平成6年2月25・26日)の折に発表する。

新任校長の一言

職員の労をねぎらう

上三川町立本郷中学校長
石井 昇

緊張のうちにも、職員やPTAの方々の協力で支えられて、無事に一学期が過ぎた。

とまどいと緊張の出発であったが、先ず、最初の仕事が、前任者からの引継ぎ事項として、着任早々に、学校教育目標の改訂作業を完了することであった。これは、新教育課程の完全実施の年に備え、昨年度後半から本格的な改訂作業が行われ最終的に新校長により完成する方向で進められて来たものであった。

次に、新教育目標具現化のための本年度の努力点の作成、努力点達成のための具体策の作成、新教育目標、本年度の努力点との関連を明確にした諸教育活動計画の作成と実践、更に、新しい学力観に立った授業の展開と評価の工夫、特に、評価基準の設定と具体的な評価のあり方の研究、それらを受けての校内研修会の開催等であった。

これら一連の教育活動に対し、職員が教育に対する自覚と使命感に燃え、創意工夫をこらして、活動する姿に接し、校長として未熟な私は、感謝するとともに、労をねぎらう毎日である。

一学期を顧みて

粟野町立清洲中学校長
佐藤 安夫

緑豊かで自然の環境に恵まれた本地区への赴任は初めてのことであるが、私の住んでいる隣町でもあり、少年の頃は山や川でよく遊びふけた地域で大変懐かしい想いがする。

着任した日、校庭で運動していた生徒たちが元気に声をかけてくれた。玄関前では放し飼いの鶏が足元に近づいて来て出迎えてくれているかのように見え、中庭の池の周辺には二羽の鴨が仲良く戯れていた。そして、職員室に入るとお互いに緊張していて、一瞬、静寂な空気が漂ったが、やがて和らいだ雰囲気になり、心の安らぎを覚えた。先輩諸氏や地域の方が築いてくれたこのすばらしい教育環境に感謝すると共に校長としての責任の重大さをかみしめ、決意を新たにした。

以来、毎日を無我夢中で過ごした一学期も終り

やっと心にもゆとりが出て来た。今年の新教育課程の完全実施や偏差値教育の是正の問題等、幾多の課題解決のための苦労も多かったが、先輩の校長先生方のご援助のお蔭で何とか順調にここまでこぎつけることができた。

これからも、学校教育目標の達成を図るため、一人一人の個性を生かしながら生徒も職員も居がいのある学校経営を目指して努力したいと思う。

明るく明るく努めて明るく

真岡市立真岡東中学校長
沼生 圭市

5年振りに現場に戻った。やはり学校はいい。生きた生徒たちが目の前を行き来している。職員室の中のある雑然とした片づかない先生方の机がまたいい。その中でまるで事件記者のような慌しさで先生方が動き回る。何ともいえない活気がみなぎっている。お役所とはまるで違う。まさに学校は生きている。

たまには抗議の電話があったり、夜遅くまで家出の子を探し回ったりも勿論ある。その上、業者テスト廃止、新しい学力観に基づく指導と評価等々、「ウーン、難しい時期に校長になってしまったもんだな……」そんなつぶやきが出ることもある。でも、常に自分にこう言いかけさせる。「明るく明るく努めて明るく」

生徒指導にしても学習指導にしても、あまりに深刻に考え過ぎると身が持たない。まして眉根にしわを寄せた校長の顔ばかり見ていては職員がたまらない。

難しい時期だからこそ、忙しい毎日だからこそ努めて明るく努めて楽しく仕事に精を出したい。校長心得その1、「校長は学校を明るくする会の会長であらねばならぬ」とのことだそうだもの。

気張らずに進みたい

大田原市立佐久山中学校長
名倉 宏達

1か月ほど前、90歳になる母を東京から車で連れてきました。母は腰を痛めて長いこと入院していましたので、元から曲がっていた腰はいっそう曲がり、杖にすがって、ようやく足を運ぶ状態でした。途中サービスエリアで休憩をとりました。ちょうど、休日だったので人であふれていました。

地区だより

今年度の活動について

宇都宮地区

今年度の校長会は、4月6日(火)の教育会館における組織づくりにはじまり、鈴木基司会長の指導の下で、県中学校長会総会の準備、宇河地区中学校長研修会、宇河中高校長連絡協議会の実施と精力的に活動してきた。宇河地区中学校長研修会では業者テストに関する課題への取り組みが中心となり、進路指導の転換を図るための基本的な視点の確認がなされた。また、宇河中高校長連絡協議会では(1)新しい学力観に基づく入試方法の改善 (2)推薦入試等について研究協議がなされた。

今後の予定は、宇河中学校長会研修会(11月・2月)を2回実施し、新学習指導要領に則した教育課程の編成や実践上の課題についての検討、新しい学力観、教育観に立った教育活動の推進等についての研修を深める予定になっている。

また、11月には、市教委文化課文化財保護係長定岡明義氏を講師に招いて、文化財巡り(今年は大江戸博物館等の見学)を実施し、歴史や文化的背景についての見聞を広め、資質の向上を図ることを計画している。

いきいきとした、
活力にみちた教育の推進

上都賀地区

32名という、県内でも大世帯の本地区校長会であるが、大堀日光東中学校長を会長に、一致団結して、何かと問題の多い最近の中学校教育に、前向きに取り組んでいる。

去る6月28日、地区研修会が開かれ、本年度の研修主題は「いきいきとした、活力にみちた教育の推進」と決定し、10月29日の第2回研修会までに、各自テーマをきめて研究し、研究協議に臨むことになった。

また同日、多くの時間をかけて業者テストについて討議した。大規模校と小規模校、市街地と山間地と、学校の環境や実態が違い、種々な意見が出たが、「文部省の指導に沿い、統一テストは実施しない。」という結論も出した。これからは各校が、それぞれ試行錯誤をくり返して、生徒の学力をつけてゆくということを確認した。

でも私たちの姿をじろじろ見る人もなく、母は妻に支えられながら進むとさっと道を空けてくれ、ベンチに近づくと、さりげなく立ち上がりて席を空けてくれました。トイレでも、洋式はこちらですよと、向うから教えてくれたそうです。若い人も年輩の人たちも、ことさらではなく、あたり前のこととして、ごく自然に親切にしてくれ、私たちにはとてもうれしいことでした。お年寄やハンディキャップのある人達への日本人の接し方も大人になったものだ、日本人も社会的に成熟したなと実感しました。

政治の世界もしかり、世の中はよくも悪くも急速に変わっていると感じました。学校教育も社会の変化に常に対応していけるようにしていかなければならないことを痛感しました。

明るく楽しい学校

足利市立第三中学校長
堤 亮

11年ぶりに若輩として11年間在職した古巣へもどってきた。職員や地域の方々にささえられて、無事新任校長の一学期が終了した。

生徒数は11年前に比べて約40%減の511名で、みんな明るくすなおである。気がかりな子どもは見当らない。先生も大変ですと言われた10数年前とは大違いである。前任者に感謝している。

前任校長からの申し送りは、「みんな一生懸命やっているからまかせておいた方がいい。やる気が一番だよ。」であった。

4月当初の職員会議の折、学校経営方針をどうぞと言われて、つい「先生方がやり易いようにやっていただければそれで結構です。生徒と職員で明るく楽しい学校をつくりましょう。」と言ってしまった。はっとしたけれど、全職員がにっこりとうなづいてくれたのでほっとした。

先生方が気分よく教室へ向ってくれるのが校長の願いである。本校の経営方針の柱は「明るく楽しい学校」である。先生方もやる気じゅうぶんで、生徒と同様明るくおらかである。言葉をかえると大ざっぱとも言える。

生徒・職員数とも減って、施設・設備もすっかり新しくなったが、伝統は少しも変っていないのかなと感じている。

本年度、研究学校として、下記の学校が長期にわたる研究の成果を公開発表する予定になっている。

- 足尾中 11月10日(県教委指定) 福祉教育
 - 鹿沼北中 10月25日(文部省指定) 道德教育
- この他、「いきいき地域ぐるみ教育活動推進」に7校、「高齢者福祉教育啓発推進」に15校が指定され、各校が、学校や地域の実態に応じて推進や研究に努めている。

研修活動の概要

栃木地区

栃木地区中学校長会は7名の会員で構成され、本年度は8回の研修会を計画している。研修テーマは、前年に引き続き「生涯学習への移行に即した学校教育はどのようにしたらよいか」を掲げたが、より確かなものにするために、さらに次の内容を課題として研究推進することにした。

- (1) 自己教育力を育てる教育課程は、どのように編成したらよいか。
 - ・ 新しい学力観に立つ指導内容・方法への対応
 - ・ 多様な選択教科・科目の開設への対応
- (2) 基礎・基本重視の教育活動はどのように展開したらよいか。

以上は、小中合同研修の中の中学校研修の部分である。その他、学校経営上の課題として、次の5つの問題にも取り組んでいる。

- (1) 生命尊重の教育の重視
 - (2) 指導と評価の一本化の推進
 - (3) 児童生徒の実態把握に基づく指導
 - (4) 性に関する指導についての共通理解と指導の充実
 - (5) 一人一人の子供の中に生きる教師の育成
- これらの課題を分担し、すでに4回の発表を行っているが、1人平均2〜3回の研究発表となるので負担は非常に大きい、それだけに学校経営者としての研修が深まることが期待されている。

研究活動の概要

小山地区

小山市校長会は小学校27校・中学校11校計38校の組織で、小・中合同の定例研修会を年間8回予定している。本年度、会としての研究テーマは『豊かな心を持ち、たくましく生きる児童生徒の育成を目指す学校経営』である。中学校部会

は、『個性を生かす教育を推進する学校経営』をテーマにして研究を進め、この成果は、12月にそれぞれの部会の代表により発表される。

また、7月には退職された先輩校長や市教委との恒例の一泊二日の研修会が持たれた。本年は千葉県の長生町の小・中学校で、道德教育について研鑽し、夜は懇親会の中で、忌憚のない意見が飛び交い、大変意義ある研修であった。

さらに県外研修としては、5月の全日中への参加を利用しての学校訪問、9月の九州方面への県外教育事情調査など活発な活動を展開している。

特に本年は、新教育課程の完全実施にともなう選択教科の取り扱いや、業者テスト利用の禁止による進路指導についての話し合いが、臨時に何回も持たれ、市校長会として共通理解を図ってきている。

研修活動の概要

下都賀地区

本地区は7町12名の会員で構成され、小川校長(大平南中)を会長として「心豊かでたくましい日本人を育成する中学校教育」のあり方を大きなテーマに、毎月各学校を順次に会場として、下記の研究計画に従って研修・調査・実践活動を行う予定である。

- (1) 研究テーマの視点の確認とその展望
- (2) 教育職としての指導観の確立
- (3) 教職員の士気の高揚と研修のあり方
- (4) 新教育課程・学校週5日制の完全実施
- (5) 望ましい進路指導のあり方
- (6) 県外教育事情調査

特に5月の研修会では、関東甲信越新潟大会において、本県を代表して山本幸正校長(石橋中)の研究提案に先立ち、発表内容及び役割分担の再確認。大会当日は、地域の伝統芸能の継承を取り入れた地域の連携について実践的で説得力ある発表は、多くの参会者に感銘を与え、改めて特色ある本県教育の「3あい運動」の成果をアピールできたことは本会の誇りである。

毎回、学校経営上の諸問題の協議では、進路指導の適性化(進路指導の見直しと校内体制)、生徒指導の充実(配慮生徒への対応と情報交換)等各校が現実問題を出し合い、研究内容と関連を図りながら、活力ある主体的な学校経営の研修に努力している。

今年度の研修と親睦

那須地区

平成5年度的那須地区中学校長会は総勢26名中6名の新任校長を迎え、菊池映二(厚崎中学校)会長を選出して、スタートをした。

まず、本地区の研修活動であるが、テーマ「心豊かでたくましい日本人を育成する中学校教育」サブテーマとして「学校週5日制と学校運営等の工夫」ということで、被川研修部長(高林中)を中心に年間9回の研修計画を立てた。

特に学校週5日制については、研究指定を受けている高林中学校の実践例をもとに、その他の地区の実践研究を加味するというので、各市町村

の研修委員がそれぞれの市町村ごとにまとめたものを持ち寄って、那須地区としての全体研修をする予定である。

また進路指導部会では、伊藤部会長を中心に、学区の見直しや業者テストの廃止等、その対応について白熱した話し合いがなされた。

そうした活動の合間にも8月11日の夜の部における那須地区中学校長会の懇親会や各市町村での管理職部会の研修会などで、お互いの意志疎通を図ったり、各学校現場での諸問題について、先輩の校長先生方から貴重な秘伝を拝聴したりして大変有意義な研修の場を設けたり、お互いの親睦を深めたりしている。

私の朝会訓話

壬生町立壬生中学校長 印南英輔

月2回の朝会、それも賞状の伝達や各種の任命などがあって、なかなか時間がとれないのが実状である。したがって、私の朝会訓話はできるだけ3分以内にまとめるよう心掛けている。

○月○日

昨日の日曜日、女子バレー部の練習試合を見ました。体育館の二階から見ていたのですが、その真剣な練習態度には心打たれるものがありました。中でも、各セットの始めに、それぞれのチームが円陣をつくり、肩を寄せあってチームワークの確認とお互いの健闘を誓い合う姿は、あたかも熟れたみかんの皮をはいだように可憐で美しいと感じました。

ところで、整然と中心に向かって並んでいるあのみかんの袋(理科的には中果皮)も、どこかひとつが腐りはじめると、たちまち他の袋に伝染するものです。本校の部活動全体にわたって、「腐ったひと袋」をつくらぬようみんなで心掛けたいものですね。

× × ×
○月○日
1年生も部活動に加わり、学校全体に活気がみなぎっている今日この頃です。私も運動が好きなので、皆さんが部活動に励んでいる姿を見ると、年も考えずに、仲間に入りたような気持ちにかられます。

ところで、よく世間では、「スポーツマンは、さわやかだ」と言われます。そのさわやかさはどこから生まれるのか考えてみました。そして、私の結論は、「勝っておごらず、負けてくさらず」という言葉に尽きるということでした。

近々、地区大会も開かれます。精一杯練習に励むと同時に「勝っておごらず、負けてくさらず」を壬生中生の心のバックボーンとしてがんばってくださることを願っています。



お知らせ

第35回関東音楽教育研究会栃木大会のご案内

栃木県中学校長会長

鈴木基司(宇・旭中)

1. 大会主題 豊かな感性を培い、進んで音楽活動をする子供を育てよう
- 中学校 曲の美しさを感じとり、主体的に活動する音楽学習

- 2 主催 関東音楽教育研究会
栃木県小学校教育研究会音楽部会
栃木県中学校教育研究会音楽部会

- 3 日時 平成5年11月12日(金)
9:00 受付
9:50 研究授業
10:50 分科会(各学校)
13:30 全体会

- 4 会場及び内容 全体会 足利市民会館
研究発表・研究演奏
指導講評
- 分科会 足利市立第2中学校
(市民会館)
足利市立毛野中学校
足利市立北中学校
ほか 小学校3校
研究授業・分科会協議

第33回関東甲信越地区造形教育研究大会
栃木大会並びに平成5年度栃木県造形教育研究大会のご案内

栃木大会実行委員長

渡辺正路(河・明治中)

下記の概要で開催します。担当教員の参加について、特段のご配慮をお願いいたします。

○大会テーマ、

『豊かな心、伸びる個性、ひらく明日』

* 中学校テーマ「感動を呼び個性を伸ばす豊かな美的体験を」

○大会期日、平成5年10月21日(木)～23日(土)

○大会会場・内容等

* 第1日、会場・栃木県総合文化センター

内容・代表者会・全体会・記念講演

* 第2日、会場・中学校部会

…宇都宮・泉が丘中

内容・公開授業・分科会

* 第3日、研修視察

○記念講演

* 講師 日光社寺文化財保存会顧問

吉原 北宰氏

* 演題 「文化財の技と心」

特殊教育関プロ大会開催される

大会実行副委員長

古賀延繁(宇・清原中)

第27回全日本特殊教育研究連盟・関東甲信越地区特殊教育研究協議会が、平成5年7月27日(火)～28日(水)藤原町(鬼怒川温泉)あさやホテルで開催されました。大会主題「特殊教育のより一層の充実・発展をめざして一個に応じた指導の深化を図る」と題して、関東甲信越地区特殊教育連盟会員及び国公私立特殊教育諸学校教職員、そして、特殊教育関係者及び障害児の教育に関心を持つ方々、およそ1000名が一堂に会して、真剣に研究協議が行われました。

開会式では、栃木県特殊教育連絡協議会長 丹野由二先生から、特殊教育の原点である「個に応じた指導」を改めて吟味し、指導の徹底を図り信頼に応えたい旨のあいさつがあり、つづいて、来賓の栃木県教育委員会教育次長桑野耕一様、藤原町町長八木澤昭雄様のあいさつをいただきました。次いで参加者は、18の分科会に分かれてそれぞれのテーマのもとに、日ごろの実践活動をとおして研究討議をし、悩み等を解消すると共に、本大会の主題に迫り、多大の成果を挙げて終了することができました。